

## 令和元年度山口県教育委員会の点検・評価について

## 1 根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条

- 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表する。
- 点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。

## 2 点検・評価の対象

- (1) 教育委員会の平成30年度活動状況
- (2) 教育委員会の平成30年度事務事業の実施状況

## 3 点検・評価1：教育委員会の活動状況

活 動	主な内容	件数等
教育委員会 会議	○議案審議：教育行政の基本方針、教職員人事 議会提出議案に係る知事への意見 申出、規則の制定 等	12回 57件
	○協議・報告：主要事業等の実施方針・取組状況 の協議・報告 等	49件
	○意見交換：教育課題に関する意見交換	6テーマ
山口県総合 教育会議		2回
	○主な議事：平成30年度重点取組方針への対応 平成31年度における重点取組方針	—
県内視察	○学校等を訪問 授業参観、施設視察、教員等との意見交換等	8箇所
その他	○公安委員会との意見交換 ○会議等への出席、他県委員等との意見交換 ・全国都道府県教育委員会連合会総会 ・中国五県教育委員会委員全員協議会 ・県・市町教育委員会教育長・委員会議	—

## 評価結果

- 例月の会議では、議案の審議は昨年度よりも件数が減少したが、協議・報告は昨年度から増加した。山口県教育振興基本計画の策定や、山口県特別支援教育推進計画や山口県子ども読書活動推進計画（第4次計画）の策定に向けた協議を行うなど、教育行政の推進に取り組んだ。
- 新たな「山口県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定に向けて、また、それを踏まえた新年度の「重点取組方針」について、総合教育会議において知事と教育長及び教育委員が協議を行い、施策の充実や新たな取組が令和元年度の当初予算に盛り込まれることとなった。

#### 4 点検・評価 2 : 事務事業の実施状況

山口県教育振興基本計画（2018年度～2020年度）の施策体系に基づき、29の施策及び7の緊急・重点プロジェクトのそれぞれについて点検・評価を行う。

##### (1) 点検・評価の方法

###### ■施策の評価

各施策の主な取組（■マーク）ごとに、実績や関連指標の到達状況を踏まえ、①取組に係る進捗状況を5段階（☆～☆☆☆☆☆）で示し、星の数を平均したものと、②指標の達成状況を3段階（☆～☆☆☆）で示し、星の数を平均したものの合計値（①+②）により施策の進捗状況として3段階（順調・概ね順調、課題あり）で評価する。

###### ◆緊急・重点プロジェクトの評価

各施策の主な取組（◆マーク）ごとに、実績や関連指標の到達状況を踏まえ、①取組に係る進捗状況を5段階（☆～☆☆☆☆☆）で示し、星の数を平均したものと、②指標の達成状況を3段階（☆～☆☆☆）で示し、星の数を平均したものの合計値（①+②）により施策の進捗状況として3段階（順調・概ね順調、課題あり）で評価する。

##### ※取組に係る評価基準

評価基準	評点	判断の目安
☆☆☆☆☆：計画を上回り進捗	5	所期の目的を上回る成果等を得たとき
☆☆☆☆：ほぼ計画どおりで順調	4	所期の成果等を得たとき
☆☆☆：一部に課題はあるが概ね順調	3	課題はあるが概ね所期の成果等を得たとき
☆☆：全体的に遅れている	2	所期の成果等を得られなかったとき
☆：大幅に遅れがある	1	取組が行われていないとき

##### ※指標に係る評価基準

評価基準	評点	判断の目安
☆☆☆：達成	3	基準値以上かつ目標値以上であるとき
☆☆：横ばい	2	基準値以上であるが目標値に達していないとき
☆：後退	1	基準値を下回っているとき

##### ※施策・プロジェクト全体の評価基準

合計値	評価結果
5.7以上	順調
4.3以上 5.7未満	一部に課題はあるが概ね順調
4.3未満	取組に課題あり

##### (2) 点検・評価の結果の反映

点検・評価の結果、取組状況に課題があるものや、関連指標の目標に未到達となっているものについては、取組内容の見直し、改善を行うなど、次年度の取組に反映する。

《点検・評価の例》

施策名		1 キャリア教育の推進			
取組	取組名	主な内容			評価
	■小・中・高連携によるキャリア教育の効果的な推進	○各校全体計画・年間指導計画の作成 ○キャリア教育推進会議開催(年2回) ○1/2 成人式、立志式の実施 ○キャリア・パスポートの活用 ○キャリア教育に関する資料活用			☆☆☆☆
	■職場見学・体験、インターンシップ等の体験活動の充実	○職場見学、職場体験の実施 ○インターンシップの充実(体験型・地域活性型) ○商工会議所との連携 ○「やまぐち教育応援団」の活用			☆☆☆☆
取組に係る評価平均(A)					4.0点
指標	指標名	基準値	H30実績	目標値	評価
	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(公立小・中学校)	小 87.1% 中 74.3% (2018)	小 87.1% 中 74.3% (2018)	増加させる (2022)	☆☆
	地域と連携して「1/2 成人式」や「立志式」を行っている公立小・中学校の割合	-	小 68.4% 中 84.0% (2018)	小中 100.0% (2022)	☆☆
	高校在学中に、体験的なキャリア教育(インターンシップ、大学・企業訪問等)を行った生徒の割合	-	高 78.6% (2018)	高 100.0% (2022)	☆☆
	指標に係る評価平均(B)				
評価点(A+B)	6.0点	評価結果	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">順調</div> 概ね順調 課題あり		
改善すべき項目 今後の展開方向	■取組は順調に進んでおり、引き続き小・中・高連携によるキャリア教育の効果的な推進、職場見学・体験、インターンシップ等の体験活動の充実に取り組んでいく。				

## 評価結果の一覧

### 1 施策の評価

#### (1) 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

No.	施策名	評価結果
1	キャリア教育の推進	順 調
2	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実	順 調
3	グローバルに活躍し、イノベーションを担う人材の育成	順 調
4	進路指導の充実	概ね順調
5	読書活動の推進	順 調
6	学校における人権教育の推進	順 調
7	いじめ・不登校等生徒指導上の諸課題への取組の充実	概ね順調
8	体力向上の推進	概ね順調
9	食育の推進	概ね順調
10	健康教育の推進	概ね順調
11	特別支援教育の推進	概ね順調
12	幼児期における取組の充実	順 調
13	少人数教育の推進	順 調

#### (2) 学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進

14	地域連携教育の充実	順 調
15	家庭教育支援の充実	順 調
16	社会教育施設等を活用した教育の充実	概ね順調

#### (3) 生涯を通じた学びの充実

17	人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	順 調
18	地域社会における人権教育の推進	概ね順調
19	地域とともにすすめる文化財の保存・活用	概ね順調
20	文化にふれあい親しむ環境づくりの推進	概ね順調
21	「輝く、夢あふれるスポーツ元気県やまぐち」の実現に向けた取組の推進	順 調

#### (4) 豊かな学びを支える教育環境の充実

22	教育施設・設備の整備、教育環境の向上	概ね順調
23	学校安全の推進	順 調
24	学校における働き方改革の推進	概ね順調
25	教職員の資質能力の向上	概ね順調
26	校種間連携・一貫教育の推進	順 調
27	多様な学びのニーズに応える特色ある学校づくり	順 調
28	私学の振興	概ね順調
29	修学支援の充実	順 調

## 2 緊急・重点プロジェクトの評価

No	プロジェクト名	H30 評価	改善すべき項目 今後の展開方向
1	「地域教育力日本一」推進プロジェクト	順調	○総合支援学校各校のコミュニティ・スクールを活用した他校種のコミュニティ・スクールとの連携強化、保護者への働きかけを行う。
2	教育を通じた「ふるさと山口」創生プロジェクト	概ね順調	○ガイダンスの充実等により、県内の企業・大学等の魅力やよさについての理解を深める取組を推進する。 ○専門分野に関する知識・技術の深化と実践力の育成、将来の地域産業を支える人材の育成に向けた取組を推進する。 ○県教委主催の短期留学への参加者の増加及び検定試験の活用の促進に努める。
3	確かな学力育成プロジェクト	順調	○引き続き、確かな学力の定着と向上に向けた取組やきめ細かな指導体制の充実に向けた取組を実施する。
4	豊かな心・健やかな体育成プロジェクト	概ね順調	○児童生徒の主体的活動や、開発的・予防的生徒指導を通じた心を育てる教育を推進する。 ○SC・SSW等の外部専門家や関係機関等との連携強化による相談・支援体制の一層の充実を図る。 ○児童生徒の朝食摂取率の増に向け、やまぐち型地域連携教育の仕組みを生かし、家庭を巻き込んだ取組を実施する。 ○オリパラ教育の充実による児童生徒の体力向上等に意欲的に取り組む態度を醸成する。
5	魅力ある学校づくりプロジェクト	概ね順調	○「通級による指導」に係る小・中学校、高等学校の教職員、生徒、保護者への理解促進に向けた専門研修の実施、生徒や保護者に対する趣旨や内容の周知を行う。
6	教職員人材育成プロジェクト	概ね順調	○平成30年3月に策定した「学校における働き方改革加速化プラン」に沿った様々な環境整備を進めるほか、県教委を中心に市町教委の取組や学校現場の状況等について情報共有を図りながら、県教委・市町教委・学校が一体となってプランに基づく取組を着実に推進し、時間外業務時間の一層の縮減を図る。
7	安心・安全な学校づくりプロジェクト	順調	○引き続き、実践的・実効的な「安全教育」の推進や、市町立学校の耐震化に向けた働きかけ等を行っていく。

主な推進指標(H30点検・評価)

◆ 主な推進指標の進捗状況

施策	No	主な推進指標	基準値		H30実績値	2022年/年度 目標値	評価	備考
			数値	年/年度				
①	1	将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合（公立小・中学校）	小87.1% 中74.3%	2018	小87.1% 中74.3%	増加させる	★★	※現状値がH30の数値で設定されているため、今年度は★★で仮置き
	2	地域と連携して「1/2成人式」や「立志式」を行っている公立小・中学校の割合	—	—	小68.4% 中84.0%	小・中100%	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
	3	高校在学中に、体験的なキャリア教育(インターンシップ、大学・企業訪問等)を行った生徒の割合	—	—	78.6%	高 100%	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
②	4	全国学力・学習状況調査正答率の全国平均との比較	<小学校> 国A72%(70.7%) 国B57%(54.7%) 算A64%(63.5%) 算B52%(51.5%) <中学校> 国A77%(76.1%) 国B61%(61.2%) 数A67%(66.1%) 数B46%(46.9%)	2018	<小学校> 国A72%(70.7%) 国B57%(54.7%) 算A64%(63.5%) 算B52%(51.5%) <中学校> 国A77%(76.1%) 国B61%(61.2%) 数A67%(66.1%) 数B46%(46.9%)	小・中学校全区分 で全国平均を上回る	★★	※現状値がH30の数値で設定されているため、今年度は★★で仮置き
	5	勉強が「好き」「どちらかといえば好き」である児童生徒の割合（公立小・中学校）	小 66.7% 中 66.8%	2018	小 66.7% 中 66.8%	増加させる	★★	※現状値がH30の数値で設定されているため、今年度は★★で仮置き
	6	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合（公立小・中学校）	小 78.8% 中 80.8%	2018	小 78.8% 中 80.8%	増加させる	★★	※現状値がH30の数値で設定されているため、今年度は★★で仮置き
③	7	中学校卒業段階で英検3級以上相当、高等学校卒業段階で英検準2級以上相当を達成した中高校生の割合	中学校卒業段階：37.9% 高等学校卒業段階：37.6%	2017	中学校卒業段階 38.3% 高等学校卒業段階 38.3%	中学校卒業段階：50% 高等学校卒業段階：50%	★★	順調に推移
	8	ヤング・サイエンティスト拡大事業における小中学生対象の科学教室への参加者数	—	—	小中 13,807人	小中 24,000人	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
	9	やまぐちサイエンス・キャンプの参加高校生数	高 79人	2017	高 75人	高 100人	★	継続的な参加が特定の学校のみであるため
④	10	高校生等の就職決定率	99.1%	2016	98.8%	100%に近付ける	★	年ごとに数値の上下があり、若干低下したものの、高水準を保っている
	11	高校生等の県内就職割合	80.2%	2016	81.1%	85%以上	★★	順調に推移
	12	中学校・高校卒業者のうち進路決定者の割合	中99.2% 高98.2%	2016	中 99.1% 高 97.8%	増加させる	★	調査時点における就職未決定者が増加したため(高)
⑤	13	読書が好きと感じている児童生徒の割合（公立小・中学校）	小73.7% 中75.2%	2017	—	増加させる	★★	H30は数値なし。今後は、国の調査に項目が無い場合は、県独自で調査を行う。
⑥	14	人権教育に関するサテライト研修等への県教委からの講師派遣回数	203回 (2013~2017累計)	—	52回 (2018年度)	250回 (2018~2022累計)	★★	順調に推移
⑦	15	「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている児童生徒の割合（公立小・中学校）	小87.8% 中85.3%	2018	小87.8% 中85.3%	増加させる	★★	※現状値がH30の数値で設定されているため、今年度は★★で仮置き
	16	いじめの解消率（公立小・中・高等学校、総合支援学校）	98.1%	2016	98.3%	100%に近付ける	★★	順調に推移
	17	1,000人当たりの不登校児童生徒数（公立小・中・高等学校）	小・中 11.4人 高 4.1人	2016	小・中 12.6人 高 4.3人	減少させる	★	不登校出現率は、近年、全国的に増加傾向であり、本県においても、同様の傾向が見られる。
	18	1,000人当たりの暴力行為発生件数（公立小・中・高等学校）	3.9件	2016	4.0件	減少させる	★	暴力行為発生件数は、中・高は減少、小学校で増加。感情のコントロールがうまくできずに暴力に及ぶケースや、一部の児童生徒が繰り返すケースが多い。
⑧	19	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）における、体力合計点の県平均点（公立小・中学校）	小5男子52.9点 小5女子54.3点 中2男子41.5点 中2女子49.4点	2017	小5男53.1点 小5女54.7点 中2男41.3点 中2女50.0点	増加させる	★★	順調に推移
⑨	20	朝食を毎日食べる児童生徒の割合（公立小・中学校）	小6:95.9% 中3:94.8%	2017	小6 94.7% 中3 93.3%	増加させる	★	全国的にも低下傾向にある。引き続き家庭を巻き込んだ取組が求められる。
⑩	21	肥満傾向児の出現率	小5男6.06% 小5女6.33%	2017	小5男 8.15% 小5女 9.74%	減少させる	★	健康診断結果を踏まえた個別指導を行うとともに、食育や生活指導等、総合的な取組が必要。
	22	12歳児でむし歯（う歯）のない人の割合	64.7%	2017	64.6%	増加させる	★	現状値をわずかに下回った。幼少期から正しい歯みがき習慣を身に付けることができるよう学校歯科医、家庭等と連携した取組が必要。
⑪	23	総合支援学校高等部の就職希望生徒の就職決定率	94.6%	2017	94.8%	100%に近付ける	★★	順調に推移

施策	No	主な推進指標	基準値		H30実績値	2022年/年度 目標値	評価	備考
			数値	年/年度				
⑪	24	公立幼・小・中・高校における特別な支援を必要とする幼児児童生徒についての個別の教育支援計画の作成率	—	—	85.4%	100%	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
	25	公立幼・小・中・高校における特別な支援を必要とする幼児児童生徒についての個別の指導計画の作成率	—	—	78.4%	100%	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
	26	義務教育段階から高等学校段階に進学、就職する生徒について、個別の教育支援計画を活用した支援情報の引継ぎ率	—	—	70.3%	100%	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
⑫	27	スタートカリキュラムの改善に向けて、幼児教育施設との意見交換や合同の研究の機会などを設けている公立小学校の割合	—	—	82%	100%	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
⑬	—	<指標5の再掲>	—	—	—	—		
⑭	28	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合（公立小・中学校）	小49.5% 中39.3%	2018	小49.5% 中39.3%	小学校60.0% 中学校70.0%	★★	※現状値がH30の数値で設定されているため、今年度は★★で仮置き
	29	地域と小・中学校を通じた「学校・地域連携カリキュラム」の策定数	—	—	小 84.9% 中 77.8%	各中学校区で1以上	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
	30	地域協育ネットコーディネーター養成講座修了者数（累計）	259人	2017	302人	500人	★★	順調に推移
	31	コミュニティ・スクールを導入し、地域と連携した学校・地域の課題解決に取り組んだ県立高校等の割合	31.5%	2017	62.3%	100%	★★	順調に推移
	32	近隣の小・中・高等学校等のコミュニティ・スクールと連携した取組を実施した総合支援学校数	—	—	6校	12校	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
⑮	33	「やまぐち型家庭教育支援チーム」の設置率	—	—	7%	全中学校区の50%以上	★★	順調に推移 ※スタート時は0.0%
⑯	34	AFPYアドバイザーの活動回数	363回	2017	437回	1,800回 (2018~2022累計)	★★	順調に推移
	35	山口博物館における「博物館学校地域連携教育支援事業」の利用者数	30,468人	2017	21,106人	150,000人 (2018~2022累計)	★	利用団体数（446団体⇒456団体）は前年を上回ったが、1団体あたりの利用者数が少なかったため
⑰	36	生涯学習情報提供システム「かがやきネットやまぐち」情報登録件数	64,707件	2017	73,742件	75,000件	★★	順調に推移
	37	社会教育主事有資格者養成数(5年平均)	17.8人	2017	19.6人	20人	★★	順調に推移
⑱	38	地域社会における人権教育の指導者養成に係る県教委主催の研修会の受講者数(年間)	304人	2017	292人	320人	★	年度当初から市町教育委員会や県立学校に対して研修会への参加を依頼してきたが、市町主催の研修会や学校行事等と重なり、参加者が思うように伸びなかった。
⑲	39	地域計画等（歴史文化基本構想を含む）の策定件数	—	—	1件	累計3件 (2018~2022)	★★	※現状値が設定されていないため、今年度は★★で仮置き
	40	文化財出前講座の実施校数	累計27校	2013~2017	19校 (2018年度)	累計95校 (2018~2022)	★★	順調に推移
⑳	41	学校芸術文化ふれあい事業を活用して、舞台芸術を鑑賞した公立小・中学生の割合（年間）	37.1%	2017	36.3%	維持・向上させる	★	現状値を下回った。事業を実施する学校の規模により、舞台芸術を鑑賞した公立小・中学生の割合が減少
㉑	42	県民のスポーツ実施率（週1回以上）	29.3%	2016	40.5%	65.0%	★★	順調に推移
㉒	43	市町立小・中学校の耐震化率	96.8%	2018年4月	97.6%	早期に完了させる	★★	順調に推移
	44	市町立幼稚園の耐震化率	86.4%	2018年4月	93.0%	早期に完了させる	★★	順調に推移
	45	長寿命化（個別施設）計画策定率	10.0%	2018年4月	10.0%	100%(2020中)	★★	順調に推移
㉓	46	日時等を事前に告げない避難訓練を実施している学校の割合（公立幼稚園・こども園、小・中・高等学校、総合支援学校）	53.3%	2017	58.3%	増加させる	★★★	H30年度は達成
㉔	47	教員一人当たり1か月平均時間外業務時間	小学校 40.8時間 中学校 56.7時間 県立学校43.6時間 (2016年度平均値)		小学校 42.0時間 中学校 55.5時間 県立学校40.6時間	小学校 28.6時間 中学校 39.7時間 県立学校30.5時間 (2019年度平均値)	★ ★★ ★★★	小学校では、新学習指導要領への対応等で現状値から後退したが、その他では改善あり。
㉕	—	<推進指標4、16、17、18を再掲>	—	—	—	—		
㉖	48	近隣等の中（小）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小（中）学校の割合（公立小・中学校）	小77.2% 中83.2%	2017	小84.2% 中88.8%	小100% 中100%	★★	順調に推移
㉗	49	中学生が説明会（各高校で開催される体験入学や学校説明会等）に参加するために訪問した高校の数	1.39校	2017	1.39校	増加させる	★★	順調に推移
㉘	50	子育て支援を行っている私立幼稚園の割合	96.8%	2017	96.0%	100%	★	現状値をわずかに下回ったものの、引き続き殆どの私立幼稚園で子育て支援を実施している状況
	51	私立学校（幼・中・高）の耐震化率 [2階以上又は200㎡以上の非木造施設]	84.5%	2017年4月	87.70%	95% (2022末)	★★	順調に推移